

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070100989
法人名	株式会社 友愛エアシステム
事業所名	グループホーム友愛
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市門司区青葉台6番1号 (電話)093-371-1208

評価機関名	株式会社アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成20年6月25日	評価確定日	平成20年8月4日

【情報提供票より】(平成20年5月9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年8月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 5人, 非常勤 5人, 常勤換算	5.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造造り
	2階建ての1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000円	その他の経費(月額)	(水道光熱費)17,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000円)	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 1,500円				

(4) 利用者の概要(5月9日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	4名	要介護2	3名		
要介護3	1名	要介護4	1名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	78歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	藤井歯科医院 / せのお内科循環器科医院 / 健和会大手町病院 / 新門司病院 / JR九州病院 / 新小文字病院
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム友愛は、門司駅近郊の高台の住宅地に位置し、周辺は緑に恵まれた静かな環境を有している。地域密着型サービスの役割を担い、校区のグランドゴルフ大会に入居者が参加するなど、年々、地域との関係が高まっている。管理者や職員は、入居者の思いや意向を掘り下げたケアの充実を図るためにセンター方式の活用も検討し、更なる認知症ケアのレベルアップを図りたいと考えている。今年度は、認知症対応型通所介護及び介護予防通所介護の開設許可を受け、地域密着型サービスとして地域に根づいた事業所展開を目指している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域密着型サービスの役割として、地域や同業者とのネットワークが課題となっていたが、入居者が校区のグランドゴルフ大会に参加するなど、交流・ふれあいを高めている。同業者との情報交換も行い、ネットワークを図るよう努めている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員で取り組み、日々のケアを振り返る機会となっている。外部評価は客観的な評価として受けとめ、評価結果を活かすよう努めている。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	定期的に2ヶ月に1回開催している。町内会長や生活相談員・老人会会長・婦人会会長が参加し、活動状況や行事の報告・今後の課題としての重度化への対応など、ホームの理解を育むと共に直面する今後の課題などを取り上げ、率直な意見交換ができるよう努めている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族に意見を言っていた場として運営推進会議があり、率直な意見を言ってもらえるよう取り組んでいる。家族の面会時には、気づいた点や気になる点など積極的に問いかけるようにし、運営に反映できるように努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、近隣のゴミを回収するなど環境美化活動に取り組んでいる。入居者は、校区のグランドゴルフ大会に参加し、地域の方々とのふれあいを楽しんでいる。また、ボランティアの方が訪問し、レクリエーション活動の協力を得ている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとして、理念の中に地域との関係づくりを図っていく方針が定められ、地域の方々とのふれあいを大切にし、校区のグランドゴルフ大会に参加するなど交流を図るように努めている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々のケアが理念にかなっているか、理念に照らしてケアを行っている。困難なケースは、職員間で協議しながら理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、近隣のゴミを回収するなど環境美化活動に取り組んでいる。入居者は校区のグランドゴルフ大会に参加し、地域の方々とのふれあいを楽しんでいる。また、ボランティアの方がホームを訪問し、レクリエーション活動の協力を得ている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員と意見交換を行い、日々のケアやサービス・業務の内容を振り返る機会としてとらえ取り組んでいる。外部評価は客観的な評価として受けとめ、評価結果を活かすように努めている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に2ヶ月に1回開催している。町内会長・生活相談員・老人会会長・婦人会会長が参加し、活動状況や行事の報告・今後の課題としての重度化への対応など、ホームの理解を育むと共に直面する今後の課題などを取り上げ、率直な意見交換ができるように努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市が派遣する介護相談員を受け入れている。介護相談員は運営推進会議に出席し、ホームの運営に協力をいただいている。また、区役所主催の見学会を受け入れ、行政との関係づくりや情報交換を行っている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を活用している入居者が1名おり、本人の身の状況など関係者と協議しながら制度の利用をサポートしている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に日常生活の様子やお小遣い収支・健康状態を文書にて報告している。また、運営推進会議の議事録を家族に報告している。職員の異動の際には、挨拶や紹介を文書にて報告するようにしている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に意見を言っていた場として運営推進会議があり、率直な意見を言ってもらえるように取り組んでいる。家族の面会時には、気づいた点や気になる点など積極的に問いかけるようにし、運営に反映できるように努めている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動などはないが、入居者のダメージを防ぐためにも職員が気持ちよく働けるように職場環境や条件を良くしていこうと努力している。職員の異動がある場合は、事前にきちんと説明するようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	職員の採用にあたっては資格の有無より、介護の考え方や人間性を重視して採用を行っている。職員は、能力が発揮でき、意欲を持って働けるように研修会や講演会の受講をすすめている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	公民館や市民センターで開催される人権に関する講演会などに参加できるように取り組んでいる。認知症高齢者の人権という点で北九州市や社会福祉協議会・福岡県の人権に関する研修などの情報収集を行い、人権に関する意識を更に高めることが求められる。		北九州市など行政が行う研修情報を収集し、人権に関して更に深い理解を育む研修の参加が必要である。
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	ホームにおいて認知症の勉強会を開催したり、外部の研修会に参加するなど、職員のスキルアップを高めるように取り組んでいる。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	八幡西区のグループホームに見学に行き、情報交換を行っている。互いのグループホーム運営における困難事例や悩みなど相談できる関係づくりを行っている。今年度は同地区のグループホームとの相互訪問を実現したいと考えている。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居前には、「ホームの暮らしがどのようなものか」を理解していただけるように入居者と家族がホームの雰囲気や味わう時間を大切にしている。徐々になじんでいただくために、ホームへの訪問回数や滞在時間を増やすなど家族の協力をお願いし、安心して入居できるように取り組んでいる。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	日々の暮らしの中で洗濯や料理を手伝っていただいたり、入居者の役割や活躍する場面を設け、入居前の普段の暮らしが少しでも継続できるように支援している。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	入居者の意向や希望を常に職員が感性を磨き、察知できるように取り組んでいるが、入居者の意向や希望を更に深く引き出すために、これまでの生活歴の情報などを基本に取り組むことが求められる。		入居者の表現できない思いや意向をどのように受けとめていくのか、時間をかけてゆっくり引き出していくなど工夫が求められる。これまでの生活歴を振り返り、「何が好きだったのか、何が得意だったのか」など職員みんなで情報を集め、日々の暮らしの中での会話や楽しみごとなど結び付けていくことが求められる。
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人や家族の意向をふまえ、職員の日常的な気づきを含め介護計画を立てている。今後は、入居者のどの部分に働きかけていくのかなど、アセスメントの充実が必要である。		入居者の認知症を分析し、「どういうところに働きかけを行うと落ち着いていくのか、どのような場面で心が通うのか」など入居者の心を動かす部分を見つけ、日々のケアや介護計画に活かしていくことが求められる。
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	定期的な介護計画の見直しや状態変化に応じた見直しを行っている。介護計画の見直しの際には、職員が日々のケアの中で、ケアの目標を意識し、ケアにあたる事が望まれる。		ケアカンファレンスの際には、短期目標の設定に関して、どの程度、ケアの目標を達成しているのかなど、入居者の状況を客観的に分析することが必要である。また、家族の協力を得ながら、これまでの生活歴を把握し、介護計画の見直しの際に反映していくことが求められる。
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	グループホームに入居しながら、地域で暮らし続けることを支援するために、友人宅への訪問など支援している。遠方からホームを訪問する家族には、宿泊などができるように支援している。従来より「家族の協力を得ながら一泊旅行ができないか」の検討を行っている。		
		本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	入居者・家族の意向を尊重し、かかりつけ医の治療が受けられるように支援している。意向がない場合は、ホームの協力医療機関での受診を支援している。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	「看取りに関する指針」を作成し、運営推進会議で起こりうる現実の状況を議論しながら看取りのマニュアルを検討している。現在、事例がないため、グループホームでできる範囲や見極めに関して検討を行っている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	入居者の個人情報や記録などは、1階の事務所に鍵をかけて保管している。入居者への声かけは、入居者のプライバシーを尊重し注意するような声かけを避けて、入居者の状況を受けとめる声かけを行っている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	書道・踊り・菜園づくりなど、その人の特技や趣味を活かす機会や場を作るように支援している。また、日々の暮らしの中でも、料理の準備など、できることを入居者のペースで行っていただけるように支援している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	毎月1回、定期的にお好み焼き・バーベキューなど皆でワイワイと楽しく準備や食事ができるように支援している。季節の旬の食材を楽しく食べていただけるように皮むきやすり鉢すりなどを手伝っていただいている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	入居者の状態や希望に応じて入浴できるように支援している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	行動計画書に3つの目標(入居者の趣味や特技を活かす/全員で楽しむ/入居者の役割が発揮できる)を設定し、日々の暮らしにリズムをや楽しみを持っていただけるように取り組んでいる。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	食材の買い物や散歩を日課にしている。弁当持参のドライブも定期的に行い外出を楽しんでいただけるように支援している。市民センターや公民館などの行事参加の外出を行っている。		
		事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	個人のプライバシーを尊重するため、入居者の居室は鍵をかけているケースもあり、入居者の希望に応じて対応している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	年1回消防訓練を実施しており、非常災害に備えて緊急連絡網の整備や避難場所としての公園も確保している。近隣住民との協力体制はある。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	病院勤務の経験がある職員がおり、おおよその摂取カロリーを把握し、栄養バランスに気をつけている。水分は午前中・午後・入浴後など十分な水分補給ができています。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共用空間は、明るくダイニングテーブルの配置を換えるなど、入居者が動きやすいように工夫を重ねている。共用空間横の和室には、ゆっくりとくつろげるように装飾品なども揃え、家庭的な環境を提供している。また、共用空間から外を眺めることができ季節感を感じることができる。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室には、仏壇やテレビが持ち込まれ、個々の好みや趣向に応じた居室となっている。1階から2階に上がる階段には、職人さんの手による簡易スベリ台が設置され、階段の昇降が安全にできるように装置の工夫がある。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			